

線は続くよどこまでも

中学年 / 3時間

鑑賞 + 表現【絵や立体で表す】

題材の目標

「瀾」と「道」を比較しながら鑑賞し、
曲線・直線のもつ美しさや表現の面白さ
などを味わう。

曲線や直線を生かし、自分らしい工夫を
入れた迷路を作る。



「道」名井萬龜



「瀾」 児玉希望

準備物

【教師】鑑賞作品の複写，画
用紙，ダンボール紙（台
紙），マジック類など

【児童】筆記用具，ペン，色
鉛筆，定規など

学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
紙に点をうち、自由な線で結び、色々な線を楽しむ。	いろいろな線があることを体験し、線のもつ感じやおもしろさに気づかせ、線の関心をもたせる。	いろいろな線の表現に関心をもつ。
「瀾」と「道」を比べながら作品の特徴を見つけ、線のもつおもしろさや感情など話し合う。	線から受けるイメージや、線から感じ取られるリズムなどを言葉（擬音語、擬態語など）で表現させ、特徴を具体的につかませる。	
直線や曲線を生かし、迷路を作る。	線を中心に鑑賞するが、児童が感じ取ったこと（色や空間など）も大切にする。 直線・曲線から発想を広げ、それぞれの特徴を生かした迷路を考えさせる。	線の特徴を生かした自分らしい表現を思い付く。
まとめ	作った迷路の活用法（他学年や園児との交流など）や立体的な迷路をつくるなどして工夫する。 友だちと迷路をして楽しみ、お互いの作品のよさを感じ合う。	

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、活動も活発になり、友だちと楽しく遊んだり、自分たちでゲームを考え楽しんだりする姿が見られます。運動場などの広い空間を使ってみんなで遊んだり、休憩時間に自由ノートなどに迷路を書いて友だちと仲良く遊んでいる姿もよく見ます。

< 鑑賞の視点 >

この「瀾」と「道」の二つの作品は、それぞれ直線と曲線を効果的に使い、抽象的な表現

がされているので、見る者によって違った感じ方や見方ができる楽しい作品です。

< 指導の工夫及び配慮 >

二つの作品を比較しながら鑑賞をすすめることは、それぞれの特徴やよさに気づきやすく効果的な鑑賞法です。児童が見つけたことや感じたことなど小さなつづやきを学級全体で共有することで鑑賞も深まります。

< 教具（教材）づくり >

迷路を描く画用紙の形は、自分の好きな形に工夫させましょう。作品は、ダンボール紙などに貼り補強すると遊ぶ時便利です。

ない まき
名井 萬龜

「道」

《油彩画，1956（昭和31）年，197.0×100.0cm》

名井萬龜は、1896（明治29）年広島市大須賀町に生まれました。名井は幼い頃から絵を描くのが好きで上京し本郷洋画研究所で岡田三郎助にデッサンなど習いましたが、受験に失敗し広島に帰りました。その後兵役につき、家業を手伝いながら絵を描くという生活を送りました。1926（大正15）年、30歳になった名井は、家族を説得し単身パリに渡り8年間絵の研究に明け暮れました。帰国後、日本美術協会列品館で滞欧作品展を開き、300点にものぼる独創的な作品は日本美術界に新風を吹き込みました。しかし、名井の絵は、広島の家に疎開させていたため、原爆によってすべて焼失してしまいました。戦後はより抽象の度合いが強い作品を描きました。

この作品は、黒い画面の中に白、赤、青の直線がある一定のリズムを持ちながら縦横無尽に走り、果てしなく続く道や自分が歩いていく道など色々な道を想像させてくれる作品です。

こだま きぼう
児玉 希望

「瀾」

《日本画，1964（昭和39）年，156.0×135.5cm》

児玉希望（本名、省三）は、現在の広島県高田郡高宮町（現在の安芸高田市）に生まれました。1917（大正6）年の暮れ、覚悟を胸に秘め歩いて故郷を旅立ち、翌年なんとか上京を果たしました。東京では、苦しい生活の中ようやく川合玉堂の画塾に入門が許され、日本画家として歩み始めました。希望は、伝統的な日本画（山水・花鳥・人物など）のみならず、色彩豊かな洋画的表現、抽象画、仏画など様々な表現に生涯を通して挑戦しつづけた画家です。

「瀾」とは波立つ流紋を意味し、この作品は鳴門海峡の渦潮を表したものとされています。波の表現も写実的なものではなく、のびやかな墨線で渦を巻いて流れるさまを描いており、描線を目で追っておくと波の流れに吸い込まれていくような不思議な感じをあたえます。